

来院患者の保護者の歯科に関する意識調査

○逢坂佐恵子、高尾美香、草村美加
許田恵、逢坂亘彦（くすのき子供歯科）

【目的】

私達は開業以来17年間、歯科医療を通して口腔衛生の指導と歯科に関する知識の提供を行ってきた。そこで今回は、患者または患児の保護者が歯科に関してどの程度の意識、または用語について認知度があるかを知るため本調査を実施した。目的は結果を今後の歯科保健指導の課題として検討することである。

【対象と方法】

平成24年11月から平成25年2月までの4か月間、当院に来院した患者または患児の保護者491名を対象とした。年齢は0歳から19歳、11項目について無記名方式のアンケートを行い集計したのでここに報告する。

【結果】

1. 歯磨きの回数においては、一日2回45.1%、3回35%が多く、仕上げ磨きに関しては83.2%が、保護者が行っていると答えた。
2. 食生活についておやつ回数は一日1回65.7%、2回27%と少ないが、歯応えのある内容のものはあまりなかった。飲み物はお茶や水と併用してジュース類が多いことがわかった。
3. 歯科用語の認知についてはどの年齢においてもキシリトール、フッ素が上位を占めた。
4. むし歯になる原因を知っているだけ書いてください。の問いに対して、食について70.8%、歯磨きについて58.8%、細菌群34%、時間について17.5%、その他5%、無回答10.7%であった。（複数回答）
5. 乳歯の本数は、正解が20.3%であった。

【考察】

今回のアンケートを通して私達の日頃の保健指導の内容と患者側の意識には少し偏りがあった。今後は年齢や家庭環境を重視し、齲蝕の予防方法や食支援の保健指導を充実させることが必要であると考ええる。

歯科衛生士専門学校生の小児歯科に対する意識調査

○楠元正一郎、坂口繁夫*
（中央歯科医院、*さかぐち小児・矯正歯科医院）

【目的】

近年、医療保険並びに診療形態の変遷により口腔衛生指導等の充実がなされ、それに伴い歯科衛生士業務の重要性が益々高まり、特に小児歯科を運営する上では歯科衛生士の確保が責務となっている。そこで今回歯科衛生士専門学校生の小児歯科に対する意識、並びに就職に対する意向を知ることが重要と考え調査を行った。

【対象と方法】

対象は福岡市内H専門学校歯科衛生士科学生149名である。方法はアンケート形式にて調査を行った。

【結果】

1. 「就職において最も重視する事」は、人間関係46%、給与28%、勤務日数・時間19%であった。
2. 「勤めたい診療科」は、一般歯科59%、小児歯科11%、審美歯科10%であった。
3. 「子供が苦手」は、はいが36%、いいえが64%であった。はいの内訳は（接し方がわからない）49%、（あまり接したことがない）21%であった。
4. 「結婚後歯科衛生士を続ける」は、思うが90%、思わないが10%であった。

【考察】

今回、学生の就職への意向、小児に対する考えを知ることができた。就職先選定で人間関係を重視したのは、社会並びに学生生活での人間関係の複雑さが反映され、対する施策として就職前の医院見学時でのコミュニケーションの充実等が挙げられる。子供が苦手な理由は、現代の少子化、核家族化が起因するものと考えられる。結婚後仕事の継続を望む意見が多い反面、歯科衛生士の離職率が高い現状においては、今後歯科衛生士として継続的な勤務が可能な環境を構築していく事が、歯科界、そして小児歯科医としての責務と考える。

【文献】

- 1) 山下理絵 他：「歯科衛生士学生における就職活動に関する意識調査」日本歯科衛生学会雑誌 2 (1) : 138-139. 2007